

# 病院に関わるデザイン実践事例報告

## 地方独立行政法人那覇市立病院ロゴマーク制作のプロセス

沖縄県立南部工業高等学校コンピュータデザイン科 金城 満

### 【要約】

地方独立行政法人としてスタートした那覇市立病院<sup>1</sup>のロゴマーク作成を病院側との協働で行っていく過程が述べられている。この双方向での制作方法は相互理解を深める事につながり「伝えたい事」を「伝わる形」にする事が出来た。これは、新たな病院運営のコンセプトに基づいた制作側からの記録<sup>2</sup>である。

### 1. はじめに

地方独立行政法人那覇市立病院<sup>3</sup>は平成20年4月に那覇市の設立した地方独立行政法人として、スタートした。それに伴い新たな病院運営のコンセプトに基づいたロゴマークを作成することになり、作成の依頼がきた。作成期間は平成22年12月から、平成23年1月末の2ヶ月間である。

依頼の理由は、過去の病院や医療に関するデザインの経験からであった。病院からの作成計画書は次の通りである。

#### (1)デザイナー

金城満（南部工業高校CD科教師）

#### (2)作成方法

①金城さんの図案を元に管理会議メンバーの意見を取り入れながら作成していく。

②月に2回程度会議を開催する。

③名刺用、看板用、カラー、モノクロ、縦書き用、横書き用などを作成する。

④コンセプトのあったものにする。(全職員が共有できる理念やビジョンをイメージ化する)

#### (3)ゴール

①1月末を目標に。理由は30周年記念誌、病院看板の作成に間に合うようにする。

②2月全職員へお披露目する。

以上

制作の立場からロゴマーク決定までの過程を記述する。依頼の趣旨は、管理会議メンバーとの協働で病院の理念を反映させたロゴマークを作り上げていく事である。

### 2. 経過

6回の会議を、経過を追って述べる。

#### (1)平成22年12月3日ロゴ管理会議その1

最初の打ち合わせ、担当者3名と必要な情報のヒアリングとロゴ作成の流れの確認。

①全体のイメージ

②イメージカラー

③ロゴタイトル（病院名・使用文字など）

④用途、ロゴのサイズなどその他要望など

最初は（図1）手描きでアイデアを練っていく。（図2）職場への依頼書は職務の一部になり、教材研究にもなる。

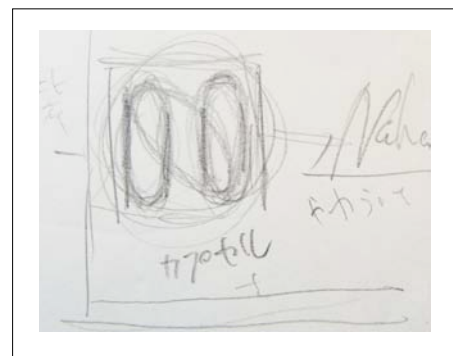


図1 ラフスケッチ

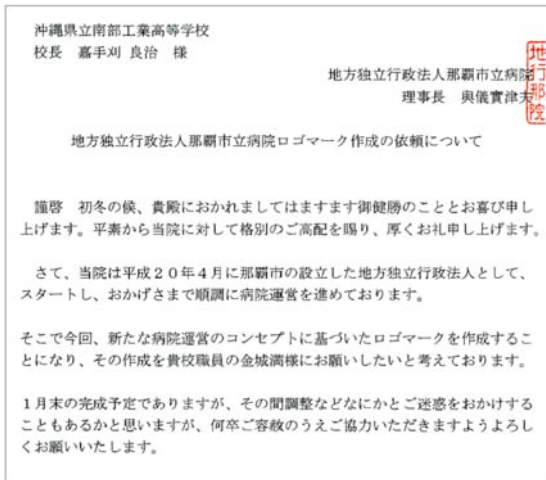


図2 制作の依頼書

(2)平成22年12月17日ロゴ管理会議その2  
カプセルをモチーフに試作(図3-6)

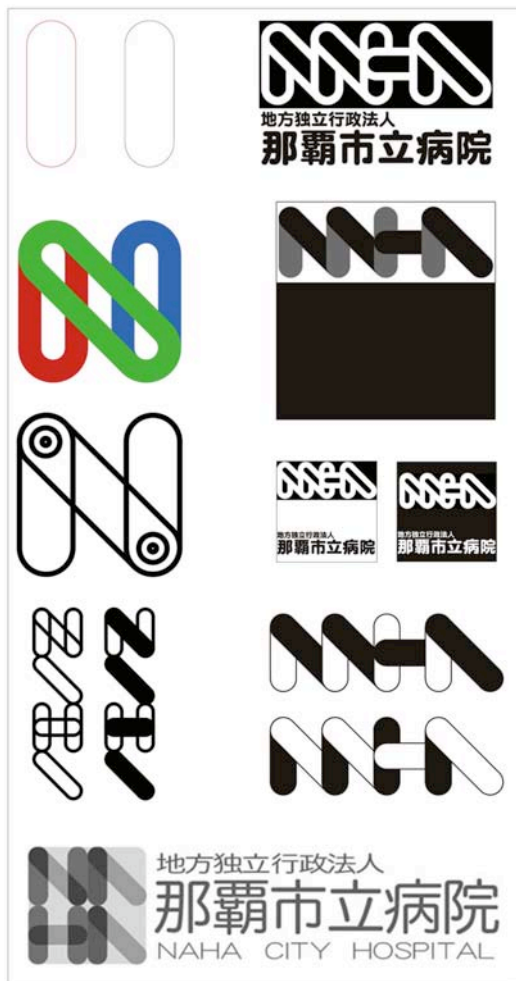


図3 様々なパターンを試作する

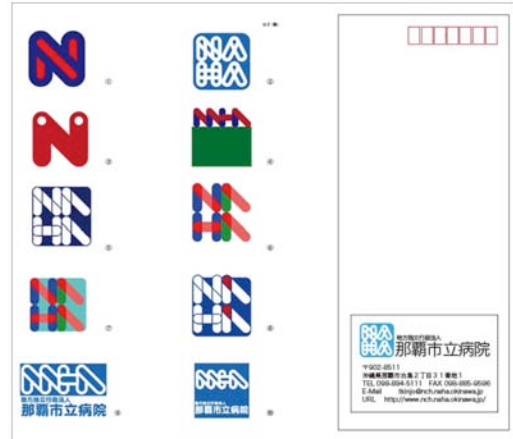


図4 封筒のパターン



図5 名刺のパターン

「NAHA」のパターンに変化をつけて作成



図6 「NAHA」を円と組み合わせ

(3)平成 23 年 1 月 5 日ロゴ管理会議その 3



管理会議で 5 点の要望が出された。「病院」方向をイメージで探っていった。

- ①「NAHA」から一端離れてデザイン
- ②「和と奉仕」の精神の視覚化
- ③「病院」というイメージ
- ④メインカラーを「ライトグリーン」
- ⑤英語での病院名は不要



図 7 ロゴ管理会議メンバー

ロゴ管理会議メンバーは、院長や事務長など十数名で、病院のイメージをそれぞれの立場から提案する。それらの提案をコンピュータを操作しながら、色や形を調整してイメージに近づけていく。(図 7～8) しかし、必ずしもデザイン的な面を考慮しての提案では無いので、造形的な問題も説明しながら進める必要がある。



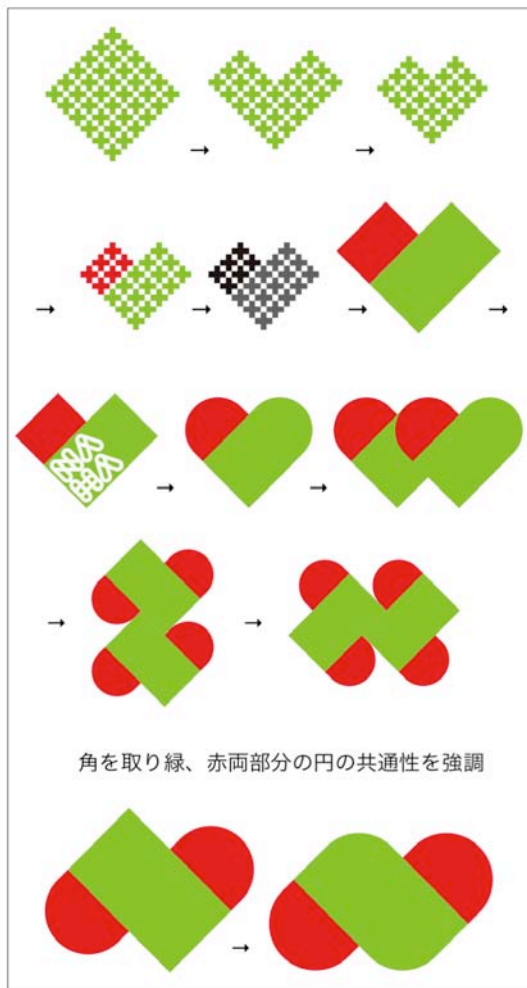
図 8 管理会議でのプレゼンテーション

(4)平成 23 年 1 月 13 日ロゴ管理会議その 4



病院を象徴する「十字」からの展開。赤十字は使用出来ないのでミドリ十字を足がかりに進めた。

(図 9)



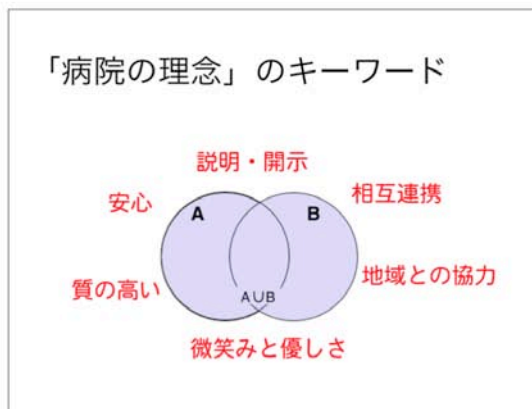
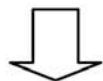
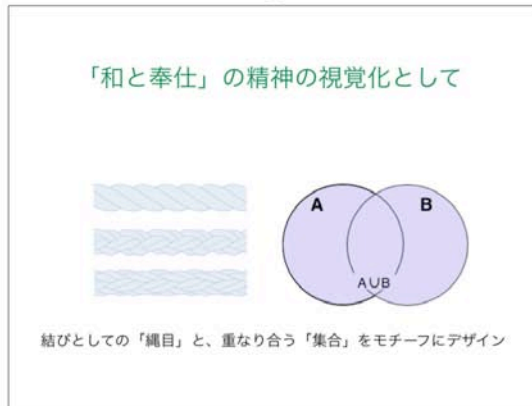
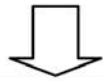
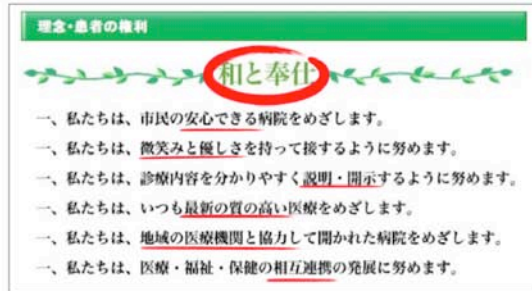
(図 9) 十字との組み合わせから

新たなモチーフとして「なわ」のイメージ会議から出てきた。(図 10)



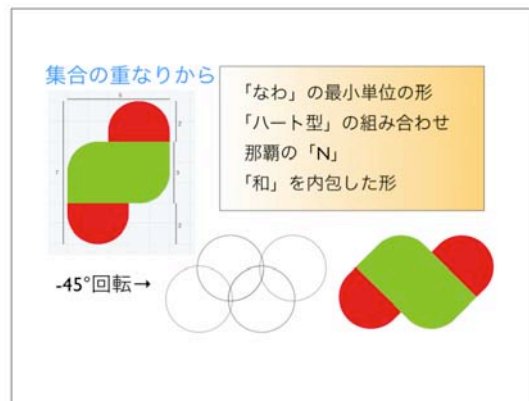
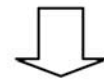
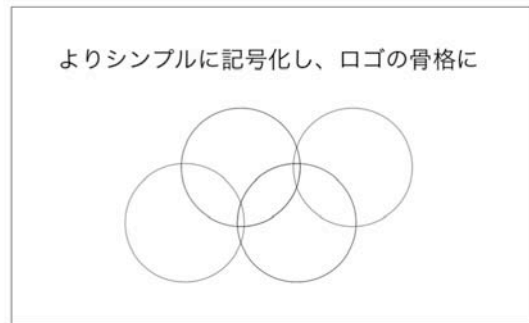
図 10 結びつけていくイメージ

(5)平成 23 年 1 月 21 日ロゴ管理会議その 5  
 もう一度原点を確認するため、病院の理念である「和と奉仕」から見直してみた。



一連のながれから「病院の理念」と造形が近づいてきた。

(6)平成 23 年 1 月 24 日ロゴ管理会議その 6  
 「理念」とは根本の考え方である。ここではキーワードがいくつも出てきたが、それらを統合する視覚的イメージとして「集合」が出てきた。あらゆる要素が重なり合い、調和していくイメージである。しかもそれは、よりシンプルで最小単位でなければならない。



色についても、赤とライトグリーンの 2 色でまとめた。(本紀要のモノクロ印刷ではロゴの両端の半円部分が赤、中がライトグリーンである)<sup>4</sup>

### 3. 結果



図 11 名刺と封筒への使用例



図 12 カラー（横型は上、縦型は左）とモノクロ

病院からの作成計画書にはロゴの用途として名刺用、看板用、カラー、モノクロ、

縦書き用、横書き用など様々である。

それらに対応するため、採用ロゴデータはWEB用に出力したGIF、JPEGの2種類と、印刷用データとしてイラストレーターファイル。また、広報用にロゴのコンセプト、正確なカラーのためにデジタルデータの数値を記入した仕様書を作成しeメールとCD-ROMで納品した。（図11～13）

#### (1) コンセプト

病院の理念である「和と奉仕」を、人と人を結びつける「結い」と「ハート」を重ね合わせ象徴化した。

また、那覇（NAHA）の「N」で、縄の最小単位の形で相互連携を表し、地域や患者との絆を表現した。

#### (2) ロゴカラー

赤 #E60012 CMYK:C0, M100, Y100, K0

緑 #8EC31F CMYK:C50, M0, Y100, K0

文字部分色 #1F286F C100, M100, Y30, K0

#### (3) モノクロパターン

赤部分 #262626 CMYK:C0, M0, Y0, K85

緑部分 #898989 CMYK:C0, M0, Y0, K60

文字部分：#000000 CMYK:C0, M0, Y0, K100



図 13 最終確認をするロゴ管理会議メンバー

#### 4. 考察

##### (1)双方向でのデザイン

今回の制作で重要な事は制作側の一方向からの提案や選択ではなく、双方向でのデザインという事である。病院側との関係が構築されるまでゆっくりと時間をかけて相互理解を深めることである。そのためには、制作側がやるべき事は、病院側が「伝えたい事」を調査して、一緒に分類、整理をし、ロゴという「伝わる形」にする事である。

##### (2)プレゼンテーション

その日の会議のテーマを明確に示すことで効率的な進行が出来る。そのためには前回の要望点、問題点、解決点などプレゼンテーションの概略を示し、会議での優先順位を制作側から示す必要がある。そのような情熱を見せることは新たな造形を生む事にもつながる。

#### 5. おわりに

公共機関のロゴマークデザインの機会を与えて下さった地方独立行政法人那覇市立病院に、心から感謝申し上げます。

平成 23 年 3 月

#### 注

1 地方独立行政法人那覇市立病院のホームページ参照。

<http://www.nch.naha.okinawa.jp/index.jsp>

2 ロゴ制作の記録カラー版は金城満のホームページ参照。

「金城満の仕事」で検索。

<http://homepage.mac.com/mkingmking/>

3 前掲 1

4 カラー版は前掲 1、2

#### 参考文献

(1)後藤 武 (著), 佐々木 正人 (著), 深澤直人 (著) デザインの生態学—新しいデザインの教科書 (東京書籍) 2004

(2)深澤 直人 デザインの輪郭 (TOTO 出版) 2005

(3)外岡 秀俊 情報のさばき方—新聞記者の実戦ヒント (朝日新書) 2006

(4)三輪 真木子 情報検索のスキル—未知の問題をどう解くか (中公新書) 2003

(5)M. H. B. McDonald, J. W. Leppard マーケティング 100 の発想—マトリックスですべてがわかる (ダイヤモンド社) 1997

(6)佐藤 可士和 佐藤可士和の超整理術 (日本経済新聞出版社) 2007

(7)八幡 紕芦史 [図解]プレゼンの技術 (PHP 文庫) 2004